会 議 録

会議の名称	飯塚市こども審議会
開催日時	令和８年７月10日
開催場所	ゆめタウン飯塚２階　ゆめホール
出席委員	垂水直樹、名武工枝、大渕加代子、大谷翼、小池千津子、 岡松美千代、細川義朋、木村幸道、香月法彦、井上ゆかり、 江藤博文、シボロ佳代、淵上亜紀、真鍋和子
欠席委員	田中祥一朗、武田祐子、大石真也、野見山敦、竹本千恵子、原和也
事務局職員	榊部長（こども未来部）、森課長（こども若者支援課）、大里係長（こども若者支援課）、田中（こども若者支援課）、野見山課長（こども家庭課）、宮本課長（保育課長）、柴田係長（保育課）
会議内容	1　こども未来部長挨拶 2　委員の変更について 3　資料確認・出席者数報告 4　報告事項 （1）こども若者プラザいいづかの開館について【こども若者支援課】 意見なし （2）プレコンセプションケア事業（出前講座）の実施について【こども若者支援課】 意見なし （3）こどもの居場所づくり推進事業の実施について【こども若者支援課】 意見なし （4）おむつのサブスクの本格的実施及び防災協定について【保育課】 意見なし （5）嘉飯桂未来塾でのこどもの意見聴取について【こども若者支援課】 意見なし

	5　議事 (1)飯塚市こども計画の進捗状況報告について 委員　SABCという形で達成度をご報告いただいたが、これは概ね順調という理解でいいのか。また、特に何か気になることがもしあれば教えていただきたい。 事務局　事務事業評価シートの成果指標に基づいてランク付けされたものを調べて並べておくだが、基本的にはおおむね順調に進んでいるというような認識でいる。 ただ、Cランクになっている事業(総括表の5-1の一番最初)もある。 その他の子ども・子育て支援に係る施策の達成状況の1ページ目Cランクの事業が9事業あり、7.2%というところで、児童虐待防止というところが 4 つあるという点。あと次のページのこどもの貧困対策のところでも、やっぱり C ランクの事業が 1 つあるが、これに関しては養育費支援ということで、申請ベースでどれぐらい申請しているかということになるので、この事業自体が先進的な事業なので問題はないかなと思っている。 最後に、こども・若者支援に係る施策の部分については、C ランクになっている事業が 4 事業ある。ここでは社会で自立して活躍できる力の部分は 2 事業ほどあるが、この分に関してはなかなか成果が表れにくい部分もありまして、今後努力をしていきたいと考えておりますが、問題とするまで大きな課題ではないかなという認識である。 委員　1. 会議資料の事前共有・情報提供について ・会議当日に資料が多く、内容を探すだけで精一杯になり、自分で考えて発言する時間が十分に取れない。 ・報告資料や進捗データは、可能なものを事前に送付してほしい。 ・参加者が資料をあらかじめ確認した上で、会議では専門的な知見を共有し、議論に時間を使えるようにしてほしい。 2. 不登校の状況認識について ・不登校について、単なる人数の増減ではなく、児童・生徒数に対する割合で状況を捉える必要がある。

	・資料上では、飯塚市の不登校児童・生徒の割合が全国平均より高いことが示されている。 小学生: 全国 23 人に対し飯塚市 35.1 人 中学生: 全国 67.9 人に対し飯塚市 91.9 人 ・この状況を重く受け止め、より具体的な対策や検証が必要ではないか。 3. 不登校の子どもへの支援体制について ・適応指導教室や学校内の支援室、フリースクールなど、多様な居場所があることは重要である。 ・一方で、次のような理由から既存の支援につながりにくいこどももいる。 ・学校そのものに行くことが難しいこどももいる。 ・距離や移動手段の問題がある。 ・人と会える状態ではないこどももいる。 ・家から出られない状態にあるこどももいる。 ・場所・心理面・移動面など、一人ひとりの事情に応じた支援の充実が必要である。 4. 情報共有と連携の仕組みについて ・グランドデザインには場所的・心理的な課題が記載されているが、それらへの対応が評価対象や取組内容に十分反映されていないように感じる。 ・支援に関する情報共有や関係機関の連携が十分ではない。 ・誰が連携の中心となり、子ども・家庭・学校・支援機関をつなぐのかを明確にする必要がある。 ・不登校の割合の高さを改善するためには、個別支援だけでなく、情報共有とバックアップ体制を強化することが重要である。 5. 要望 ・不登校支援の課題や疑問を継続的に共有・検討できる場、または会議の議題を設けてほしい。 ・十分な検討時間を確保し、関係者が共通認識を持って支援体制を検討できるようにしてほしい。

	事務局　1. 個別事業の詳細議論について ・進捗管理の場で、各事業について一つひとつ深く議論することは、運営上難しいと考えている。 ・不登校支援などのテーマ別の議論については、後半で予定している専門部会で検討する内容の議題において扱うことを提案したい。 個別の課題に関する議論は、後段の専門部会に関する協議まで待ってほしい。 2. 資料・回答の事前提供について ・今回は、質問が締切直前または締切後に提出されたものもあり、各担当課への照会・回答の取りまとめに時間を要したため、事前送付ができなかったこともあり申し訳ない。 3. 今後の改善方針について ・次回以降は、会議日程が未定の段階からでも、進捗に関する質問や意見を早めに受け付けるなど、やり取りの方法を工夫する。 ・会議までにできるだけ質問・意見を集め、資料や回答を事前に確認できるよう改善していく考えを示す。 委員　先程の質問のところの資料の 4 ページの児童クラブ（事業№10-㉙）のところだが、入所率と書いてある。 私も児童クラブの満足度がいつも気になっているので、指標に追加することを検討させていただくという回答だが、これは年度途中からでもこういう指標の中に組み込んでいただけるような検討があるのか教えていただきたい。 事務局　評価指標は飯塚市の事務事業評価で用いる評価指標でありで、原則として年１回見直される。 学校教育課に対し、令和８年度事業の評価時に、満足度などの新たな指標を追加できるか検討するよう働きかけている。評価シートに指標が反映されれば、こども計画の年度にかかわらず、令和８年度から進捗管理に活用できる見込みである。 ただし、アンケート結果を用いる場合は実施時期によって反映が遅れ、令和 9 年度の評価から数値が現れる可能性もある。市としては、関係課に前向きな検討を継続して

	働きかける方針である。 委員　質問意見が出て、回答が出てというところでまた各課に戻って、その後はどうなるのかを教えていただきたい。 事務局　こども計画の進捗管理については、回答いただいているので、その後どうなったのかという追っかけは我々事務局の仕事になるので、今年度第３回目までの間にその後どうなったかをヒアリングするという形で対応を考えたいと思う。 委員　事業は廃止・変更・新設されることがあるため、既存事業で得た意見や評価を、次の事業や新たな取組に迅速に生かしてほしい。 少子化や若者を取り巻く状況は変化が速いため、年度ごとの正式な事業評価を待つだけでなく、当事者・利用者・これから関わる若者の意見を早く反映できる仕組みが必要ではないか。 アンケート等を活用し、現場の声を随時把握して事業の改善につなげる方法を検討してほしい。 事業の変更・廃止・新設に関する情報が十分かつ早期に共有されないと、「知っていれば参加したかった」という人が生じるおそれがある。そのため、情報発信と関係者間の情報共有をより密にし、現場の意見をタイムリーに反映するための具体的な工夫や仕組みがあればなと思う。 事務局　新規事業や翌年度予算の検討は、概ね夏から始まり、10 月頃には新規事業に関する庁内ヒアリングが行われる。 事務事業評価がまとまる６月頃以降に出された審議会の意見や質問は、担当課が翌年度事業を検討する際の重要な材料となる。 担当課が「検討する」と回答した内容は、翌年度の事業設計や予算要求に反映できるよう、夏頃の検討段階で考慮される。 こども計画の進捗管理は、委員・利用者等の意見を次年度以降の事業改善につなげる重要な仕組みであり、今後も意見を求めていく。 （2）病児・病後児保育の方向性について 事務局　少し意見を付け加えさせていただきたいが、先程、委員

	からお話があったように事業をどうやって改善していくか、今後どうしていくかというところから、こども審議会のご意見を反映させる内容と思っており、今回審議事項にさせていただいたのが先程の説明でもあったように、病児・病後児緊急対応強化型という事業につきましては、新しく立ち上げた事業で、市の事業、基本的には新しい事業を始めて 3 年間で成果を見て、その事業を継続すべきか、廃止すべきか、それとも何か改善すべきかというのを見直さなくてはいけないというサイクルがある。 病児・病後児緊急対応強化型は、大変使い勝手のいい制度で、少しずつ浸透してきており、回数もどんどん増えてきているとこではあるが、いかんせん 1 件当たりが 23 万円と非常に高額で、この形を続けて良いのかという議論は当然起きる。 この審議会として、この事業についてはやはり共働き支援、少子化対策、子育て支援、飯塚市は子育てに優しいまちだというのを表している以上、続けるべきだというご判断をされるのか、いや続けるべきではなく、これは廃止してもっと別の方向で考えるべきではという、そういうような議論を経た上で、我々担当課として次の令和 9 年度の予算に上げるか上げないかの参考にしたい、ということの意味を込めて議題とさせていただいている。そこで皆様のご意見を伺いたいと思うので、ご意見をいただきたい。 委員　1 件当たり 23 万円と高額だと思うが、これはどうやったら安くなるのか。 事務局　単純な割り算なので、利用率が上がり、利用件数が倍になれば、経費は 2 分の 1 になる。 まずは利用がどんどん増えた方がいいというところで単価が下がる。 あと、対応型の部分については、一応専任の看護師やスタッフとかがどうしても必要になるので、そこの固定経費は下がらないということになると、この人件費的なところの事務局経費の 900 万円という数字を下げようと思うと、ファミリーサポートセンター事業ともうちょっと兼ね合いを良くして、事務局経費を下げてもらうように、現在受託いただいてる事業所に努力してもらうか、という部分で経費を下げると

	いうところの直接的なものになる。 ただ皆さんのいただいた意見として、ほしいなというところは、どうやったらこれを皆さん使っていただけるかというところ。それは多分この会員を増やす中で、今頭打ちで 40 回ぐらいで大体止まってる。 これをもうちょっと増やすためには、どのような工夫が要るかというようなところ。あと実際に利用されている知り合いとかいたらとか、利用してない親御さんとか、病気とかになった時に困っているんだよねって、じゃあファミサポを使えばいいじゃないってなったときに、ファミサポって何？ていうような人にどうアプローチするかとか、そういったところの知恵をいただけたらなと思っている。 委員　ファミリー・サポート・センター事業（ファミサポ）は、子どもの急な病気などで利用したい場面があっても、利用しにくいと感じる保護者がいる。 特に 20 代・30 代の子育て世代と、支援する提供会員との間に、価値観や世代間の違いを感じるケースがある。 自宅での預かり・支援を依頼する際、初対面の支援者を家に入れることに心理的な抵抗や負担感（家の中を見られることへの抵抗感や掃除や片付けをしなければならないという負担感）がある。 短時間の利用でも、事前のコミュニケーションが十分でないことへの不安もあり、その結果、病児保育を利用する、行事参加を諦めるなど、ファミサポ以外の選択をする保護者もいる。 若い保護者にとっても利用しやすい仕組みとなるよう、心理的なハードルや世代間のギャップを踏まえた改善が必要ではないか。 事務局　ちなみに病児・緊急対応強化型の方は、預かる側のご家庭で預かるという形はなかなか厳しいので、ファミサポ事務局の中に幼児専用のお部屋を用意しまして、そこで預かることもできる。 送迎もしてくれるっていう形になっているので、今、委員が言われたご心配はいらない事業になっている。 委員　ただ、利用者がいっぱいの時が多い。流行り病になると一気に流行り病でいっぱいになるので。 事務局　病児保育に関しての利用状況の日毎の部分を見ても、満杯

	になっているっていうケースが、ファミサポの病児・緊急に関しては満杯になった日は１日もない。 普通の病児保育、さくらルームさんだったりとか飯塚らいむさんだったりとかは結構満杯になったりとかするケースはあるらしいが…。 委員　ちょっと、その事情をみんな詳しく知らない。だからそれを知らせることがまず先決だ。 事務局　このようなご意見がいただきたいので、皆様の意見を頂戴したい。 委員　ファミサポの会員数には、子どもが成長して利用していないにもかかわらず、登録が残っている人が含まれている可能性があるのではないか。 ファミサポは、近所や知人同士で子どもを預け合うような支え合いを、保険加入や低額な謝礼を通じて安心して利用できる仕組みとして始まったものだと認識している。 利用前には会員同士のマッチングがあり、誰にでも預ける仕組みではないことなど、安心して利用できる仕組みが十分に周知されていないのではないか。 利用時の心理的負担を減らすためにも、事業の趣旨や利用方法、マッチングの仕組みをより分かりやすく周知してほしい。 登録だけで利用・活動していない会員の状況も確認しつつ、「おねがい会員」「まかせて会員」「どっちも会員」の新規登録を増やすための周知方法を検討してほしい。 事務局　新規会員の獲得に向け、今年度から受託事業者が子育てイベント等でファミサポを周知する取組を始めている。 例として、赤ちゃんハイハイレースの参加者に対して、ファミサポの仕組みを案内している。 今後も、委員の意見を踏まえながら、子育て関連イベントを活用した周知を進めていく。 委員　病児・病後児保育の「緊急対応強化型」は、病気の子どもを外出させて預けること自体が負担であり、初めて知ったため内容や必要性を慎重に検討してほしい。 病気の回復状況や集団生活への復帰可否の判断は難しく、緊急時の受入れは症状悪化や入院につながるリスクもある。 利用を広く促すだけでなく、本当に緊急性・必要性の高い家庭に適した、継続可能で安全な支援となるよう、対象や運用を検

	討してほしい。 家庭で看護できる場合には、保護者が安心して判断できるよう、病状への対応や受診の目安などの情報提供も重要である。 預かりサービスだけでなく、医療機関、子育て支援施設、相談窓口などが連携し、家庭を支える仕組みを整えてほしい。 事務局　委員の意見としては、そういった手軽に預けるという部分以外のもうちょっと違う、保護者として、子供を養育するに当たってやはり注意しなければいけないことだったりだとか、そういったことの周知も啓発もどんどんしていかないとカバーするばかりが子育てに優しいまちではないという捉え方で捉えたがよろしかったか？ 委員　良い。 事務局　病児・緊急対応強化型では、子どもの送迎にも対応でき、自宅から出られない保護者を支援する仕組みとなっている。 兄弟姉妹が同時に体調不良やけがをした場合など、保護者が一人で対応することが難しい緊急時の利用を想定している。 制度の内容や利用方法が十分に知られれば、利用を希望する家庭が増える可能性がある。 今後は、ファミリーサポートセンターによる支援内容や実際の利用者の声を広報し、制度の周知を強化することを検討する。 （3）専門部会において検討を行う内容について 事務局　個別事業を深く議論するには、専門家や担当部署から話を聞く別の検討の場が必要である。今回は、支援・相談や子どもの居場所づくりをテーマに専門部会で検討することを提案している。 外部委員として、「こども・若者プラザいいづか」のまちの保健室に関わる大西教授（筑紫女学園大学）と、こども食堂等を支援する NPO 法人いるかの田口理事長に協力を依頼しており、内諾を得ている。 不登校児童生徒への支援やアウトリーチも議題に含めることができる。検討は３回程度を予定するが、必要に応じて次年度以降も継続できるよう長期スパンも検討しており、今年度分

	の予算も確保している。 　本日の審議会では、このテーマの採択と、専門部会に参加する委員２名程度の立候補を目標としている。 委員　はい、立候補します。こども食堂とかがテーマで入っていたので。 会長　まずテーマで採択に疑問があるかどうかということでお尋ねをできればと思うが、質問はないか。 委員　この内容を見させてもらって、最初にいろんなテーマを出し合ったときに、私は、こどもの居場所ってそのこどもの遊び場というところも含まれるのかなと思っていたが、会議資料、検討内容とかを見た場合にそこが見受けられなくて、そのあたりについても検討するような会議になるのかというところが聞きたい。 事務局　こどもの居場所と考えた時に、放課後遊ぶところなのか、こども食堂みたいにいるのか、それとも勉強するのかとかいろんなテーマがあると思うので、そこは居場所の現状と推定は幅広く取り扱うことができるので、一番最初のこどもの居場所、こども食堂等の現状についてというところで、交流センターだったりとか放課後こども事業だったりとか、いろんなところでこどもの居場所ってこういう状況にあるというお話をさせていただこうと思っているので、そこから遊び場まで展開できるかどうかという話はあるが、議題の中には含まれるというところで、この２回程度で解決できるものとは思っていないので、いろんな話の中で、ここまではこういう意見を出しました。次はこの点までということで持ち越しすることも想定しているので、とりあえずテーマとしてはこのテーマでいきたいというところをご了承いただければと思っている。 会長　はい。では、このその他ご質問等あるか？ そのテーマの事務局提案に対して代案等が無く採択いただけるようであれば、先程ご案内があったとおり委員の立候補という形で進めたい。 　まず採択に関しては、ご異論のある委員の方はいらっしゃいますでしょうか。 （意見なし） 会長　こちらで承認を得られたというようなことでよいか？ では立候補ということで、本審議会から２名程度ということな

	のでよろしければ立候補をお願いしたい。 （委員 3 名立候補有り） 会長　3 名の立候補をいただいた。その他、立候補は無いか。立候補された委員 3 名にお願いするということでよいか。よろしくお願いする。 事務局　お 3 方の立候補をいただいた。あと外部委員を 2 名ほど、先程の事務局の案で、ちょうどこれで 5 名、あと市の関係部局の職員が 2 名程度で 7 名という委員構成になるが、この中で、部会長を選出するという作業があり、こども審議会の中では審議会会長のご指名によって、部会長を決めて良いという仕組みになっている。全員が集まってメンバーが決まったところで互選した結果を、審議会会長に承認いただくということで部会長を選出したいと思うので、まずはフラットに皆さん集まっていただいてそこから部会長を選定するというところをさせていただくという流れでご案内を差し上げたいと思うので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。 会長　それでは議事については以上で終了となるが、何か発言があればお願いしたい。 委員　はい。すいません。項目がなかったが、これは私が質問させていただいたが、飯塚市内の幼稚園バスとかの停留所について飯塚市は把握していないという感じだが。バスの運転手がどうのこうのではない。今バスのあおり運転とかの問題がよくある。そんな時にも対応できるようなところを、多分先生たちは見てくれてると思う。各幼稚園等の先生たちは見てくれてると思うが、対策しなくていいものなのか。 事務局　この回答については、資料 7 ページに、保育課からの回答で、送迎場所については把握していない。それは、送迎場所は施設と保護者が協議し一番良いと思われる場所を選定しており、児童の入れ替わりにより変わる施設が多いため、その都度選定している。バスの安全確認までは我々が検査しきっていないというか、そういった状況にあるということの回答だと思われる。 あと、バスのおろし忘れ対策としては、ICT 活用の関連で全国的に置き去り事件とかあった関係で補助がついて、そのバスに安全装置をつけることがもうほぼ義務化されて、それに関しては安全装置設置の補助金を出して設置しているので、そ

	この降ろし忘れについては問題はないと考えている。ただ場所がどうしてもそこしかないとか、送迎の場所が大変危険であるとかいうふうな形の判断については、各施設が安全管理として対応していただいている。その 1 つ 1 つに関して我々が指導監査的なことは行っていないというのが現状です。 ご意見としてはそういったところを市は把握すべきではないかというお話だと思うが、これに関して指導監査内容としてそういったものが義務的に課されていないのでしていないというのが現状と思わる。 そこをどうするか年 1 回そういった立ち入り検査じゃないが、そういったことをやるべきかというところはご意見として伺うが、それを実施することを約束ができる状況にはないというところだと思われる。ご意見として承らせていただく。ありがとうございます。
会議資料	1-1 こども・若者プラザいいづかの開館について 1-2 こども・若者プラザいいづかについて 2-1 プレコンセプションケア出前講座開催 2-2 令和 8 年度飯塚市プレコンセプションケア推進事業 2-3 令和 9 年度飯塚市プレコンセプションケア推進事業（案） 3-1 飯塚市のこども食堂の状況について 3-2 こども食堂チラシ 4-1 おむつのサブスク事業について 5-1 飯塚市こども計画の進捗状況報告について 5-2 飯塚市こども計画 質問・意見に対する回答 6-1 病児・病後児保育施設の運営について 6-2 病児・病後児保育の方向性について 7 専門部会において検討を行う内容について
公開・非公開の別	（1）公開　　2 一部公開　　3 非公開 （傍聴者 0 人）
その他 （非公開理由等）	